

たちまち
びと

特別対談

生みの親が語る、キャラクターたちの誕生と未来

誕生時の原案は
こんな感じ



もともとはバスのシンボルマークとして誕生。公募への挑戦をきっかけに全身も描かれ、みんなに愛されるキャラクターとなり活躍の場が増えました。



くるりん

くるりんは…ふゆにうまれたうさぎのこはるになってすあなのそとにでてみると、ほわっとしっぽがさいた(こぶしのはなににしているね) しっぽをよくみようと、みぎにまわったりひだりにまわったりしてるうち、ほっぺがうずまきになったよ みんなから「くるりん」とよばれるようになりました それからたちかわをげんきにはしりまわっているよ だけどみんなともっとなかなくなりたくて、くるりんバスからとびだしてきたんだ



立川市キャラクター くるりん
作者 鳥澤安寿さん

Profile
市内在住。クリエイティブディレクターとして活躍中

立川市公認なりそこねキャラクター ウドラ
作者 まつおよういちさん

Profile
市内在住。グラフィックデザイナーの経験を生かしてウドラを制作

互いのキャラクターに感じた「リスペクト」

—お二人は普段から交流はあるんですか。

鳥澤 実は、こうしてしっかりお話しするのは今回が初めてですね。

まつお イベント会場などでは何度かお会いしているんですが、対談は初めてです。よろしくお願ひします。

—お互いのキャラクターの第一印象を教えてください。

鳥澤 立川市キャラクター投票の最終投票に残ったウドラを見て、心惹かれるものを感じました。見た目のインパクトもそうですが、作者の魂が込められているというか。正直なところ、くるりんじゃないのであればウドラがいいなと感じ、実際にそのことをまつおさんに伝えました。

まつお 元々くるりんバスで知っていましたが、体が付くことでよりかわいくなったと感じました。私自身はかわいいキャラクターを描くことが得意ではないので、差別化のため大人にも受け入れやすいようなデザインを目指しましたが、子どもたちはくるりんのかわいさのほうが好きだろうなと思ひました。

—互いにリスペクトを感じていたんですね。そんなキャラクターたちが生まれたきっかけは何だったのでしょうか。

鳥澤 まつおさんのお話にもありましたが、くるりんは、応募する前から「市民バスのシンボルマ

ーク」として2002年から既にまちを走っていたんです。立川市キャラクター公募の際は、既存キャラクターは対象外かなという認識だったのですが、「既存の“マーク”そのままではなく、新たに“キャラクター”としてデザインするのであれば応募できますよ」とアドバイスをいただいて。そこから試行錯誤しながら作り上げていったんです。ウドラはどうやって生まれたんですか？

まつお 私は当初、応募なんて全く考えていなかったんです。でも、デザインの仕事をしてたのと、絵を描くのが趣味だったこともあって、妻から「せっかく立川に住んでいるんだから」と強く背中を押されたのが応募のきっかけです。最初は気が進まなかったもので、締め切り3日前ぐらいになってようやく重い腰を上げました。最初の案はうまくまとまらなかったで、気分転換に入ったお風呂で方向性を変えると決心し、「うどの怪獣」にたどり着きました。

「公認」と「なりそこね」、それぞれの転機

—ウドラは惜しくも2位でしたが、その後どんな道を歩んできたのですか。

まつお 公認にはなれませんでした。投票してくれた方への感謝を込めて、SNS上で細々と「立川市公認なりそこねキャラクター」として活動を始めたんです。そうしたら、活動が企業の目に留まり……気付いたら信じられないような展開になって

いて。 —ウドラもあつという間に、イラストから飛び出して、立川のまちに降り立った印象があります。

まつお そうなんです。コトブキヤ*さんに夢を聞かれて、「イラストだけでなく、実際に立川のまちを歩くウドラが見たい」と答えたら、すぐ実現してくれて。目の前で動くウドラと子どもたちが触れ合う姿を見たときは、いきなりゴールに着いたようなスピード感に、夢を見ているようでした。

*ウドラのキャラクター展開を行っている市内企業

—対してくるりんは公認の立川市キャラクターとして浸透していったんですね。

鳥澤 はい。最初は点数だったデザインも、今では170種類を超えています。JR立川駅北口のウェルカムボード設置や、10周年記念のイベントでは、ファンの方にも来ていただいてうれしかったです。着実に活動の幅が広がっていきました。

「伝える」使命と、「寄り添う」想い

—「キャラクターを制作してよかった」と感じることはありますか。

鳥澤 コロナ禍でマスクをしているくるりんを描いたときなどに強く感じたのですが、行政のようなエッセンシャルワークといわれる仕事と、エンタメや販促などの仕事は、実は表裏一体で、どちらか一方だけでは存在し得ない気がしたんです。くるりんはコミュニケーションを円滑にするという役目を担っ

ているので、行政でもありエンタメでもある。そんな重要で貴重なお仕事をさせていただいていることに幸せを感じています。

まつお 私はやっぱり、ファンの方からの声为本当にうれしいです。ウドラを好きと言ってくれる方のために始めた活動がきっかけでここまで来れましたが、その気持ちは今も変わっていません。最初はファンの方の前に出ると、恥ずかしくてモジモジしていました(笑)。

鳥澤 もう「公認」といえるくらい活躍していますよね。

まつお そう言ってくださるのはありがたいことですが、「公認」はくるりんのもの。ウドラはあくまで「なりそこね」だと考えています。頑張ったけどうまくいなくて足掻いている人たち。そんな人たちに「そのままでもいいんだよ」と寄り添える存在でありたい。そこがウドラの大切な立ち位置だと思っています。

—すてきな考えですね。今後してみたいことはありますか。

鳥澤 くるりんは単体のイラストが多いのですが、なんだかさみしい気がして。他のキャラクターと一緒にイラストをもっと描けたらなと思っています。

まつお 欲を出しすぎると失敗すると思ひますので、モニュメントまで建ててもらった今、これ以上多くは特別望まないようにしています。くるりんとうドラが手を取り合って立川とうどのPRに一日でも長く役立っていければと思っています。

誕生時の原案は
こんな感じ



ボールペンで描かれたラフ画。口のラインや体形など、試行錯誤の跡が残るこの一枚から、あの独特な愛らしさが生み出されました。



©UDOLLAND

ウドラ

市民の立川愛が特産品の立川うどを突然変異させ、怪獣ウドラが誕生！ 市をアピールするキャラクターということで、特産品の立川うどを怪獣化したキャラクター「ウドラ」がうまれました。立川市キャラクターには残念ながらならなれませんでした。立川市公認なりそこねキャラクターとして再び現れ、立川市のパワーで皆さんに愛されるキャラクターとして成長しています。

対談のオフショットなどを、シティブロモーションサイト「たちまちたちかわ」で見ることができます。「たちまちたちかわ」について、くわしくは4面で紹介します。



くるりんとうドラのあゆみ

市民バスのシンボルマーク「くるりん」と愛称「くるりんバス」が決定し、くるりんバス運行開始

2002年

立川市キャラクター投票で1位獲得！

2012年

立川市キャラクター投票で2位。立川市公認なりそこねキャラクターとして活動を始める

JR立川駅北口デッキで「くるりんウェルカムボード」をお披露目

2013年

コトブキヤと出会い、キャラクター化へ。オフィシャルグッズを発売開始！

くるりんのカラーマンホール第1弾設置

2014年

くるりんが描かれた立川市オリジナルナンバープレート限定交付(現在は終了)

2018年

立川市内の子どもたちが夢を形にする事業を支援するプロジェクト「ウドラ夢たち基金」がスタート

立川市キャラクターとして10周年

2020年

立川市公認なりそこねキャラクターとして10周年

2022年

JR立川駅南口デッキに

2025年

くるりんとうドラのモニュメントが誕生！

